研究データ管理の知識を好循環させる情報サイト:RDMkit-JP



○南山泰之¹、塩谷昌之¹、大波純一²、増井誠生³、長岡千香子³、古川雅子³

1. 東京大学社会科学研究所 附属社会調査・データアーカイブ研究センター

2. 国立研究開発法人 理化学研究所 バイオリソース研究センター 遺伝子材料開発室、 3. 国立情報学研究所 オープンサイエンス基盤研究センター

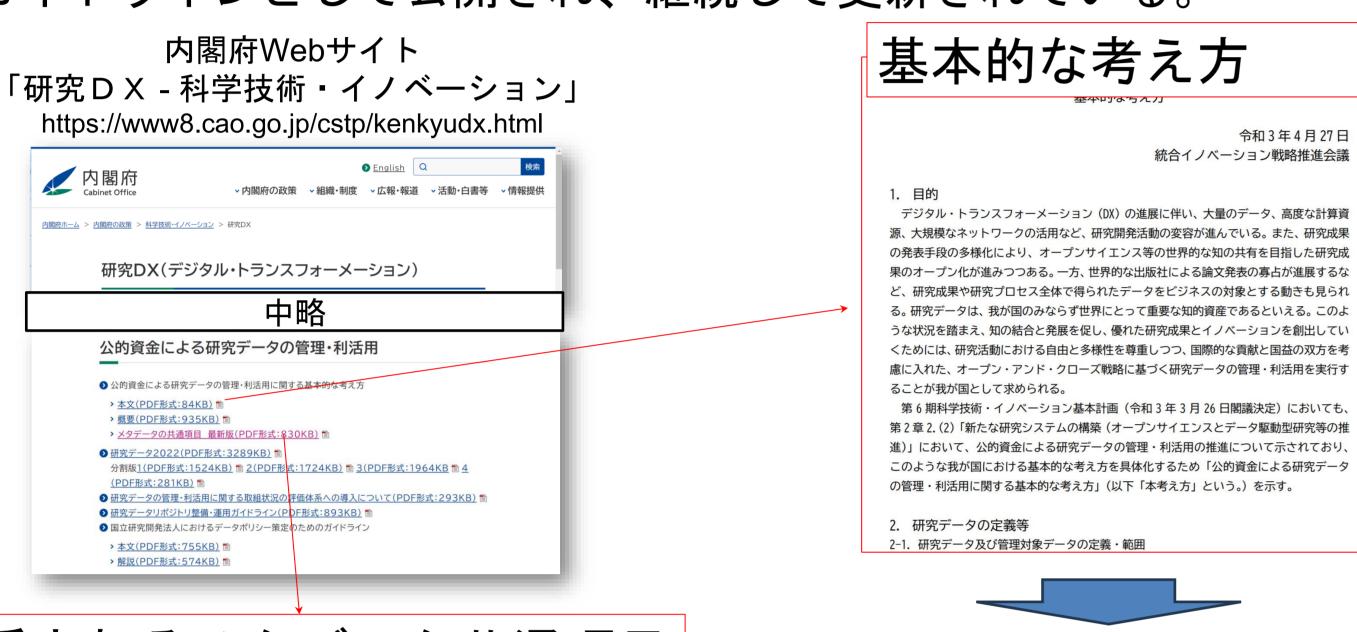
要旨

限られた資源の中でより効果的な研究活動を実施するため、研究データ管理 (Research Data Management; RDM) の重要性は、以前よりもさらに高まりつつある。 2026年度から始まる内閣府の第7期科学技術・イノベーション基本計画においても日本の 研究パフォーマンスを最大化する方針が示されており、RDMに関する知識が下地となっ ていくことが考えられる。先行する取り組みとして、生命科学分野の国際的なプロジェク トであるELIXIR-CONVERGEプロジェクトでは、RDMの情報提供サイト「RDMkit」を公 開し、研究者やデータ管理者向けの知識啓蒙に努めている。

RDMkitの取り組みを参考に、我々は2023年に「RDMkit-jp」を新しく構築し、国立情報 学研究所より公開した。サイト内にはRDMに関するノウハウ、ツール、事例、ベストプ ラクティスを掲載している。今後も研究コミュニティからのフィードバックを受け、 RDMの知識が好循環し、日本の学術研究が円滑化されるようさらなる拡充を進めていく。

内閣府Webサイトから公開されている 研究データ管理の指針

■2022年以降、「公的資金による研究データの管理・利活用に 関する基本的な考え方」のための「メタデータ共通項目」が ガイドラインとして公開され、継続して更新されている。



推奨されるメタデータ共通項目



大学や研究所などの公的機関は、内閣府の これらの指針に対応し、 研究データ管理体制を整備する必要がある。

しかし国内の公的機関では、研究データ管理 (RDM; Research Data Management) の基 **礎知識やベストプラクティス**などの情報共有が 十分ではなく、対応が困難。

国際プロジェクトELIXIR-COVERAGEでは、「RDMkit」サイトから RDMに関する情報を、CC-BYライセンスで公開している。 この枠組みを利用し、日本国内のRDMを扱う立場や目的ごとに 平易な言葉で情報共有できるための基盤「RDMkit-jp」を構築

情報サイト「RDMkit-jp」

■トップページ(https://rdmkit.rcos.nii.ac.jp/)



RDMkit-jpのコンテンツ拡充

RDM情報公開サイトの状況

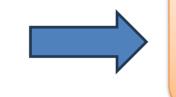
国内外の分野ごとや助成機関、研究機関ごとに RDMについて解説するWebサイトは増加しつつある。



RDMkit-jpは、日本の総合的な視点でのRDM情報のポータルとして、 コンテンツの充実と利便性の向上を目標とする

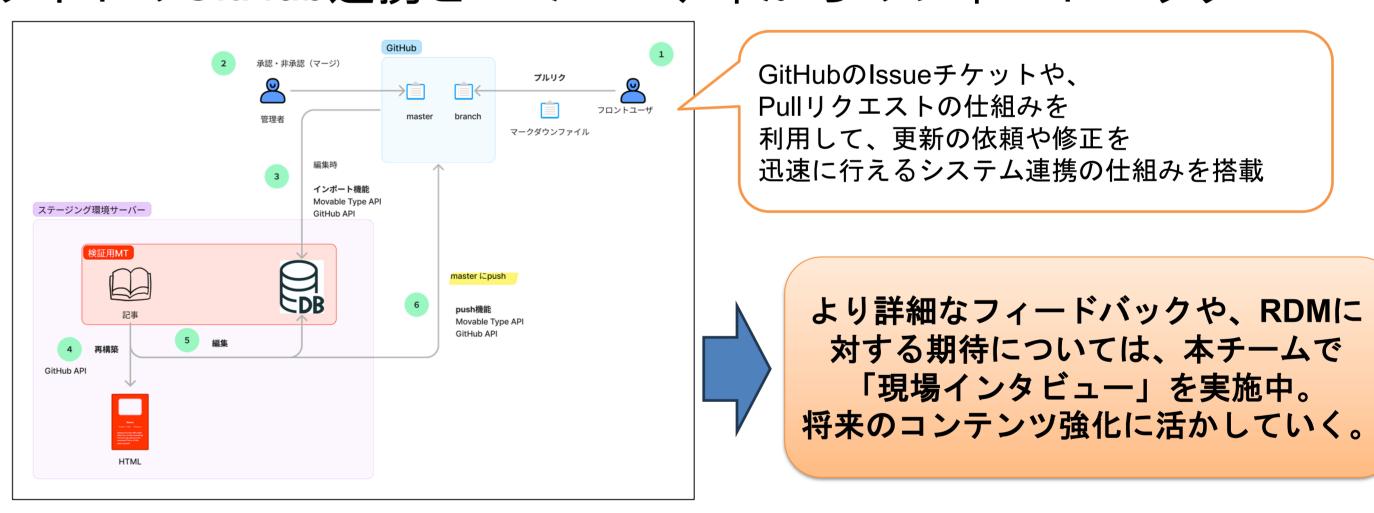
RDMの説明に役立つフリーアイコンの作成





直感的に理解しづらい、RDMの概念や役割、行動のイメージを元に 専門イラストレーターによるアイコン画像を作成。 画像はサイトより配布予定

■ サイトのGitHub連携とコミュニティからのフィードバック



教材リストの拡充



まとめ

- 公的資金による研究データの管理・利活用が必要とされる背景
- 2023年6月に、RDMの基礎情報や公開例を体系化したサイト「RDMkit-jp」をリリース
- 国内外でRDMに関する説明サイトは増加しつつある状況
- RDMをより分かりやすくするためのフリーアイコン作成
- サイトをGitHub連携しコミュニティからのフィードバックを受けられるようにした
- 教材リストの記載を追加

謝辞

- 本研究は以下の助成の元で実施しました。
- ・文部科学省「AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業」
- ・情報・システム研究機構 2025年度戦略的研究プロジェクト 「異分野間の研究データ共有と利活用に関する経験の蓄積と高度化に向けた情報基盤の開発」

トーゴーの日シンポジウム2025

会期:2025年10月20日(火) 於:品川ザ・グランドホール